第11回（令和4年度）

千代田町 小・中学生ふくし ポスター・作文コンクール

このコンクールは、町内の小・中学校にご協力をいただき、福祉教育の一環として児童及び生徒の社会福祉に対する一層の理解とボランティア活動への関心の高まりや、思いやりや助け合いのこころでお年寄りや障がいのある人、健康な人もみんなで手をとり合い生き生きと暮らせる地域社会を願って実施しました。

【応募総数:ポスターの部 102作品／作文の部 78作品】

ポスターの部（中学生）最優秀賞

千代田中学校３年　羽石（はねいし）　陽凪（ひなな）さん

入賞者一覧（敬称略）

≪ポスターの部≫

小学生　低学年

最優秀賞　東小学校１年　髙木　葵登
最優秀賞　西小学校２年　高橋　依那
優 秀 賞　西小学校１年　木下　海常

小学生　中学年

最優秀賞　西小学校３年　高橋　凛花
優 秀 賞　東小学校４年　大竹　悠晴
佳　　作　東小学校３年　金子　誠真
佳　　作　西小学校４年　松沢　望桜

小学生　高学年

最優秀賞　西小学校６年　鈴木　朝香
優 秀 賞　東小学校５年　筑比地咲良
優 秀 賞　東小学校６年　山本　唯奈
佳　　作　西小学校５年　野中　瑠架

中学生

最優秀賞　千代田中３年　羽石　陽凪
優 秀 賞　千代田中２年　井上　　優
佳　　作　千代田中１年　齋藤　瑠南

≪作文の部≫

小学生　低学年

最優秀賞　西小学校２年　高橋　依那

小学生　中学年

最優秀賞　東小学校４年　川島　怜生
最優秀賞　西小学校４年　清水　芽彩
優 秀 賞　西小学校３年　諸田　健恭
佳　　作　東小学校３年　吉永　詞葉

小学生　高学年

最優秀賞　西小学校６年　蓮見　芽生
優 秀 賞　西小学校５年　川島　侑夏
佳　　作　東小学校６年　竹内　聖真

中学生

最優秀賞　千代田中３年　松沢奈那美
優 秀 賞　千代田中１年　泉水　萌衣
佳　　作　千代田中２年　小坂　茉夕

（小学生・低学年）最優秀賞

東小学校１年　髙木（たかぎ）　葵登（あおと）さん

（小学生・低学年）最優秀賞

西小学校２年　高橋（たかはし）　依那（えな）さん

（小学生・中学年）最優秀賞

西小学校３年　高橋（たかはし）　凛花（りんか）さん

（小学生・高学年）最優秀賞

西小学校６年　鈴木（すずき）　朝香（あさか）さん

千代田町社会福祉協議会
（千代田町ボランティアセンター）

〒370-0503
群馬県邑楽郡千代田町大字赤岩2119-5
電話　0276-86-6181

URL　http://www.chiyoda-shakyo.or.jp/

作文の部（最優秀賞）

小学生・低学年

思いやりのこころ

千代田町立西小学校　二年　高橋　依那

　みなさんは、ダウンしょうについて知っていますか。わたしのともだちは、ダウンしょうで生まれたときからしんぞうにびょうきがあります。赤ちゃんのときから、手じゅつをうけたりリハビリをうけたりして、がんばって元気にすごせています。

　ダウンしょうは、みんなよりもせい長がゆっくりで、体も小さいです。なので、小学生だけど一年生よりもせがすこし小さいです。みんなと同じべんきょうやうんどうをするのが、むずかしいです。それでも、いっしょうけんめいがんばっています。そのため、かぞくやおともだちなど、まわりの人たちのお手つだいが、ひつようだと思いました。それだけではなく、まわりの人もダウンしょうをりかいし、色いろとたすけあうことが大切だと思いました。

　しょうがいやびょうきがある人をみためではんだんしないで、みんながここちよくすごせるようになればいいです。そのためにはやさしい気もちや、思いやりをもってすごすことが大切だと思います。わたしも、こまっている人や、お手つだいがひつような人がいたら、たすけてあげたいと思います。

小学生・中学年

福祉は思いやりとやさしさ

千代田町立東小学校　四年　川島　怜生

　福祉って言う言葉は、とてもむずかしいと思います。そして、それを行動することは、もっとむずかしいと思います。

　辞書で「福祉」を調べると、幸せやゆたかさを意味する言葉で、最低げんの幸福やえんじょをていきょうするということみたいです。

　むずかしいことはわからないけど、みんなが幸せに生活することができるようにすることが、目的なんだろうと思います。それは、国や県が仕事として行う福祉から、自分のまわりのボランティアや家族のために何かすることまで、全部が福祉なのかなぁと思います。

　ぼくには、ひいばあちゃんがいました。名前はサダばあちゃんです。ぼくが生まれた時もうサダばあちゃんは「にんちしょう」という病気で体も動かせないので、ろう人しせつに入っていました。ぼくは、家族と一緒にときどきろう人しせつに会いに行きました。サダばあちゃんはベッドにねていましたが、みんなが話しかけてもよくわかりません。でも手をにぎったり、さすったりすると、少しうれしそうにしていました。三年前、コロナウィルスがはやる前に亡くなりましたが、みんなが会いに行っていろいろ話しかけたことはきっと分かっていたのではないかと思います。

　福祉って、一番は思いやりとやさしさが大切なのだろうと思います。ふだんの生活の中で、ぼくたちにもできる「福祉」があるのだろうなぁと思います。

　みんな仲良く、毎日、幸せな生活を送ることができれば一番の福祉だと思うし、幸せだと思います。

小学生・中学年

ふだん感じている事と手話

千代田町立西小学校　四年　清水　芽彩

　わたしのあばあちゃんは、少し耳が遠いです。お話する時も大きな声でお話します。お家のテレビの音は、いつも大きいです。時より、わたしがテレビをつけると、ものすごく大きい音や声でびっくりしてしまいます。お家では、ほちょうきをつけています。ほちょうきをつけると少し、聞こえがよくなるみたいです。お母さんにその話をすると、家のおばあちゃんだけでなく、年をとると、だんだん耳が遠くなる人、大声でお話をする人、目が悪くなる人、おこりっぽくなる人、体がうまく動かなくなる人、わすれることが多くなる人など、いろいろふべんになってしまうと聞きました。そのような人を見かけたり、こまっていたら「手をかしてあげてね」と言っていました。

　年をとって、耳が遠くなる人もいれば、生まれつき・じこのしょうがいで耳がふ自由な人もいるなと思いました。

　ほちょうきの他にも、紙とペンを使って文字に書いて伝え合う筆談。その動きや顔の表じょうを使って伝え合う手話・ジェスチャーなどがあります。その中で気になっているのが手話です。お母さんは、学生の時に、少しだけ教えてもらった事があると言っていました。手話をおぼえるのに、方ほうは、一つ目、手話を使っている人と手話でたくさんお話をすることと言っていました。話すためには、うまく伝えるためには、どうしたらいいか考えるからだそうです。でも、なかなか使うことはありません。二つ目、歌を手話でうたうことだと言っていました。好きな歌ならすすんで覚えられるからだそうです。たしかにそうだなと思いました。

　さっそく、ユーチューブで探してやってみました。歌に合わせて、楽しくできました。これで、手話が覚えられて、こまっている人がいたら、たすけてあげたいです。

小学生・高学年

夢の国

千代田町立西小学校　六年　蓮見　芽生

　私のいとこには、障害を持っている子がいます。その子は、今小学一年生ですがまだ一人で歩く事ができません。

　この前、そのいとこと一緒にディズニーシーへ行って来ました。いとこの子は、一人では歩けないので、車イスを使っています。

　ディズニーでは、身体障害者手帳を持っていると、「ゲストアシストカード」という物を発行してもらえて、アトラクションの順番待ちを、行列ではなく他の場所でゆっくり待つ事ができます。待ち時間が短くなる訳ではないですが、障害のあるいとこにはとても助かります。それにパーク内は、階段のあるすぐ近くには必ずスロープがあり、安心して移動できます。その他にも、車イス専用の乗り物があったり、乗り物へ移乗する際、時間を要する方のために専用の乗り場を用意しているんだそうです。段差があるところには、キャストさんが小さなスロープを置いてくれたりとても親切です。

　私は障害のある方やお年寄りに優しく、もちろん障害のない方達にも優しいディズニーリゾートが大好きです。

　最近の家や建物でもよく聞く様になったバリアフリー。私達のまわりにも道路や入口の段差など、たくさんのバリア（障へき）があります。障害のある方やお年寄りだけではなく、全ての人にとって日常生活の中で存在するバリア（障へき）をフリー（のぞく）にして、やさしいまちがつくれたら、私の住んでいるこの町も夢の国になるかもしれません。

中学生

「祖母の笑顔」

千代田町立千代田中学校　三年　松沢奈那美

　私の祖母は昨年の十月からグループホームに入所しました。グループホームとは、認知症対応型共同生活介護と言い、認知症の高齢者が介護職員のサポートを受けながら、九名という少人数でアットホームな雰囲気の共同生活を送ることができる施設です。

　祖母は昨年、認知症と診断されました。それは突然の出来事で、急に認知と思われる症状が現れると瞬く間に進行し、一人で生活することが日に日に難しくなっていきました。母と伯母は介護サービスを受けるために、市役所に介護認定を申請しましたが、祖母の症状は待った無しの状態です。繰り返される緊急搬送による入退院や、泊まり込みでの介護に母も伯母も追いつめられていきました。ようやく、介護が必要な状態か市の職員さんの訪問調査を受け、かかりつけ医療機関の医師に介護を必要とする症状について意見書とよばれる診断書を提出してもらいました。更にコンピューター審査という専門家の審査で、どのくらい介護が必要かの認定が行われた結果、祖母は「要介護2」という判定になりました。

　要介護認定とは、介護の必要性に応じて「要支援1～2」または「要介護1～5」に数値化して認定する制度のことです。要支援よりも要介護の方が、介護の必要性が高く、それは数値が大きくなるほど上がります。先ほども書いたコンピューターによる「一次判定」が行われるのは、審査に「公平性を保つため」だそうです。一次判定の結果をもとに、専門家による「二次判定」が行われます。

　祖母が判定された「要介護2」は、介護の段階では二番目と低いですが、誰かの介助無しでは生活できない状態だと認定されたことにより、様々な介護サービスを受けられるようになりました。

　申請書提出から通知がくるまでに約一カ月を要し、その間も母と伯母は毎日交替で祖母の介護を続けました。この時期の母はとても疲れていて、母を送り出す時は心配でしかたありませんでした。

　その後、介護サービスの利用希望を地域包括支援センターに相談し、担当のケアマネージャーさんが決定しました。話し合いの結果、祖母が以前から希望していた介護施設入所を第一希望とし、幸運にも空きが出来たグループホームへ入所することができました。

　最初の一カ月は祖母も大変だったようですが、施設の職員さんたちの丁寧な対応によりどうにか落ち着くことができました。

　入所当時は、コロナ対策で面会禁止でしたが、ケアマネージャーさんからの電話や、毎月施設から届くお便りで祖母の様子を知ることができました。現在は窓越しで十分間ですが面会もできるようになりました。

　一時は休職や退職すら考えた母ですが、現在も仕事をしながら、家事や祖母のことをこなしています。介護施設、施設の職員さんがあってこそ、私たちは日常生活が送れるのだと母は言います。祖母の場合、在宅介護という選択肢もありましたが、そうなれば誰かがつきっきりで介護をする必要があります。住まいの状況、家族の状況は家庭ごとに違いますが、介護による負担はどの家庭にとってもとても大きいものだと思いました。

　「福祉」という言葉を調べてみると、しあわせ、幸福、（国または地方公共団体による）生活の安定や充足、とあります。また、高齢化が進み、祖母のような一人暮らしの高齢者や、子育て世帯など、誰かに助けてほしい、支えてほしいとSOSを発する人たちを見守り、支え合うことも福祉の一つです。祖母、母、伯母という身近な存在の人たちに起こった出来事を通して、これから私たち若い世代も福祉に参加し、福祉のある安心して暮らせるまちづくりが必要だと強く感じました。

　福祉に対して何が出来るのか、具体的にどう関わっていけば良いのだろうか、と考えてみました。まずは私が小学校の時にお世話になった児童館の先生や、学童クラブの先生に相談してみるのも良いと思います。それと、千代田町広報を読み、町がどんな取り組みをしているのか調べるのも一つだと思います。コロナの状況もありますが、福祉体験や福祉実習なども授業に取り入れてほしいです。

　祖母は現在、毎日食事も残さず食べ、職員さんのお手伝いをして、施設での共同生活にも慣れ、穏やかに過ごしているそうです。

　「心のふれあいを大切に共に過ごす場所、ひとりの笑顔がみんなの笑顔に」

　この言葉は、祖母が入所している施設のホームページに掲載されているメッセージです。祖母や家族だけでなく、地域の人たちの笑顔が消えないように、私たち一人ひとりが福祉について考え、温かい社会になるよう努力するべきだと思います。

作文の部（最優秀賞）